

三井住友銀行

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2019年5月30日

担当者：

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

はじめに

2018年12月、三井住友銀行（SMBC）は再生可能エネルギー、エネルギー効率、グリーンビルディング、クリーンな運輸、汚染の防止と管理に関連する支出のファイナンス又はリファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました（以下、「グリーンボンド」）。2019年5月、SMBCはサステナリティクスとの間で、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトを審査し、これらのプロジェクトが三井住友フィナンシャル・グループ／三井住友銀行グリーンボンドフレームワーク 2018（以下、「グリーンボンドフレームワーク」）¹で規定された資金使途のクライテリアやレポートングクライテリアを満たしているか評価を行う委託契約を締結しました。

評価基準

サステナリティクスは以下の要件について、2018年に調達資金の充当を受けたプロジェクトおよび資産を評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. グリーンボンドフレームワークで規定された各資金使途クライテリアに対し少なくとも一つの主要業績評価指標（KPI）に関する報告

表1に調達資金の使途と適格クライテリア、表2に関連するKPIを示します。

表1：調達資金の使途および適格クライテリア

SMBCはグリーンボンドによる調達資金を全部（又は一部）、既存・新規の環境関連プロジェクト（以下、「適格グリーンプロジェクト」）のファイナンスに充当すると表明しています。適格グリーンプロジェクトには、下表に示すカテゴリーの1つ以上に該当するプロジェクトが含まれます。

調達資金の使途	適格クライテリア
(A) 再生可能エネルギー	太陽光、風力、地熱、バイオマス（持続可能な原料又は廃棄物に限る）、及び小規模水力（発電容量が25MW以下）の再生可能エネルギーの発電又は送電施設の開発、建設、及び運営事業。
(B) エネルギー効率	LED照明や高効率HVAC（暖房、換気及び空調）、建築断熱材、エネルギー使用量のコントロールシステムを含む（ただし、これらに限らない）省エネ設備に関する事業。重複を避けるため、以下のカテゴリー（C）に該当するプロジェクトは、カテゴリー（B）から除外される。
(C) グリーンビルディング	「LEED（エネルギーと環境デザインのリーダーシップ）」、「BREEAM（英国建築研究所建築物性能評価制度）」、「CASBEE不動産評価認証（建築環境総合性能評価システム）」などの地域、国家又は国際的に認知されたグリーンビルディングの第三者認証において、「LEED Gold」、「BREEAM Excellent」、「CASBEE A Level」以上の評価を得た新たな建物の建設又は既存建物の修繕に係る事業。

¹ 三井住友フィナンシャル・グループ／三井住友銀行グリーンボンドフレームワーク（2018）：
https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/12/SMFG_SMBC_Green-Bond-Framework-Overview_SPO_Japanese_Final.pdf

(D) クリーンな運輸	クリーンエネルギー車（電気自動車及びそれを支えるインフラを含む）への移行、及び公共交通機関（鉄道輸送、自転車、その他の非自動車輸送の改善を含む）の開発、運営及び更新を支援する事業。
(E) 汚染の防止と管理	廃棄物のリサイクルや廃棄物処理発電等の施設の開発、建設および運営に関連する事業。

表 2：主要業績評価指標 (KPI)

主要業績評価指標 (KPI)	
インパクト・レポートिंग	<p>SMBC は、融資を行った適格グリーンプロジェクト（調達資金の用途で規定）の環境への影響に関する情報と評価を専用ウェブサイトにて年 1 回掲載します。融資を行った適格グリーンプロジェクトの環境への影響は、レポートの際に全体で集計・計算されます。SMBC はプロジェクトのカテゴリに応じて、次の指標に関するレポートिंगを約束しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CO2 排出量 (t 換算) • エネルギー消費の削減量 (kwh) • 廃棄物のリサイクル量 (t)

発行体の責任

SMBC は、プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報および文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス (ESG) とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、SMBC のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本委託契約の一環として、同社のグリーンボンドフレームワークとの適合性の確認のため、SMBC の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、対象プロジェクトに関して SMBC から提示された情報と事実に依拠しています。SMBC が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会 (Sustainability Bonds Review Committee) が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果、²すべての重要な側面において、SMBC のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の用途及びレポートングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。SMBC はサステナリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が 2019 年 3 月 29 日時点で全額充当されたことを開示しました。

²サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 3：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2018年にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上の表 1 に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	2018年にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上の表 2 に示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。報告された KPI の一覧は参考資料 2 を参照。	審査したすべてのプロジェクトは関連する KPI についてレポーティングクライテリアに従って報告されていました。	該当なし

参考資料 1：審査対象のプロジェクトカテゴリー一覧

#	プロジェクトカテゴリーの領域	プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	エクセーター原則カテゴリー	契約日	エネルギー源	カテゴリー内の全プロジェクトが資金使途クライテリアに適合
1	再生可能エネルギー	太陽光	5	カテゴリー B：5 件	過去 24 カ月以内：5 件	該当なし	適合
2	再生可能エネルギー	風力	4	カテゴリー B：4 件	過去 24 カ月以内：4 件	該当なし	適合
3	再生可能エネルギー	バイオマス	1	カテゴリー B：1 件	過去 24 カ月以内：1 件	持続可能な原料又は廃棄物に限定されていたことを確認	適合

参考資料 2：プロジェクトのインパクト一覧³

#	プロジェクトカテゴリーの領域	プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	グリーンインパクト：CO2 排出削減量の合計 (t-CO2/年)	グリーンインパクトのうち SMBC に帰属するもの (t-CO2/年) ⁴	発電容量 (MW)	カテゴリー内の全プロジェクトの KPI がレポートングクライテリアに適合
1	再生可能エネルギー	太陽光	5	98,910	48,871	148.26	適合
2	再生可能エネルギー	風力	4	620,596	109,106	567.60	適合
3	再生可能エネルギー	バイオマス	1	310,945	118,669	75.00	適合

³ 推定される年間グリーンインパクト (CO2 排出削減量) は、三井住友銀行 (SMBC) の情報と国際エネルギー機関 (IEA) 及び資源エネルギー庁のデータを使用して日本総合研究所 (JRI) が算出。

⁴ 各プロジェクトにおける SMBC の出資比率に基づいて算出。

免責事項

© Sustainalytics 2019 無断複写・複製・転載を禁ず

このセカンドパーティ・オピニオン（以下「オピニオン」）に関する知的財産権はすべてサステイナリティクスに帰属します。サステイナリティクスの書面による事前の許可がない限り、本オピニオンのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音、その他の形式・手段を問わず、複写・転載・公開すること、二次的著作物の作成、形式を問わず第三者に提供すること、又は本書の一部や本書の内容を公表することはできません。また、オピニオンの対象となる「グリーンボンドフレームワーク」を伴うことなく、公開することもできません。

本「オピニオン」は、特定の投資家を対象とせず、一般の投資家向けに、分析対象の債券が持続可能かつ責任あるものだと考えられる理由を述べるために作成されました。従って、本「オピニオン」は情報提供のみを目的とするものであり、サステイナリティクスは「オピニオン」の内容についてのいかなる形の賠償責任も、本「オピニオン」やそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません。

本「オピニオン」はクライアントから提供された情報に基づいて作成されているため、サステイナリティクスは本「オピニオン」に提示された情報の完全性、正確性及び最新性を保証することではなく、また誤差脱漏に対する責任を負うこともしません。引用している第三者名は、情報の出所を示すものであり、かかる情報所有者によるスポンサーシップ又は推奨とはならないことにご留意ください。

本「オピニオン」に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、又は投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。さらに本「オピニオン」はいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈することはできず、また債券による調達資金の効果的な充当を扱ったものと解釈することもできません。

クライアントは、自身のコミットメントの遵守、実行及びモニタリングに関する実証及び遂行に対して全ての責任を引き受けるものとします。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステナリティクス

サステナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に13のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESGに関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステナリティクスはClimate Bonds Standard Boardにより検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。サステナリティクスは2015年に、Global Capital社により「最も優れたSRI・グリーンボンドリサーチ・格付企業」に選出され、2018年と2019年には「もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018年には、Climate Bonds Initiative及びEnvironmental Finance誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定され、2019年にはClimate Bonds Initiativeにより「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれました。また、サステナリティクスは2018年に一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞し、2019年にはジャパン・グリーンボンド・アワードのジャパン・グリーンコントリビューター部門で「環境大臣賞」を受賞しております。

詳しくは、www.sustainalytics.comをご参照、又は

info@sustainalytics.comにご連絡下さい。

